郷土史 ていね

第 187 号
令和 5 年 11 月 8 日
手稲郷土史研究会 会報

［令和 5 年10 月11 日 定例会発表要旨］

手稲にとって手稲山とは何か

北海道科学大学
未来デザイン学部 地域デザイン研究室 准教授
北方地域社会研究所 研究員
博士（芸術工学） 道 尾 淳 子

北海道科学大学は、当講演のテーマにある「手稲山」の山頂より直線距離にして東に約 7.5 キロの位置にある、札幌市手稲区にただ一つ所在する大学である。約 5,000 名の大学生と教職員が、工学系・保健医療系・人文社会系の学びを手稲の地にて展開している。講演では、筆者が 2019 年度より取り組む域学連携プロジェクトの一つを紹介させていただいた。域学とは、大学生や教員が地域に入り、地域とともに地域づくりに継続的に取り組む実践活動のことである。筆者主宰の地域デザイン研究室では、関わる一人ひとりが当事者意識とワクワクする気持ち、創造力を持って活動することをポイントに、さまざまな地域においてデザイン思考の企画開発、実践活動を行っている。

1 手稲山は 360 度ぐるっとある

「手稲山」の行政区分は札幌市（西区・手稲区・南区）だが、山頂に電波塔がいくつも立つユニークな山のシルエットは周囲の稜線とは明らかに異なるので、近郊の市町各所からその姿を認識できる。手稲山は都市型低山の一つである。低山とは標高約 1,000 メートル以下の山を指す。札幌市域で 17 番目に標高の高い山であり、市街地に隣接する山としては最も高い。登山の難易度として決して高くはなく、足慣らしの山、ハイキング気分で楽しむことができる山として位置付けられる。山には西区平和の滝側の自然歩道入口と、手稲区側はサッポロテイネのスキー場斜面からアクセスできる。ただし、スキー場は民間社有地であることから、専ら、春から秋にかけては、岩がゴロゴロした西区側が必然人気であり、グリーンシーズンの手稲区側斜面の活用は、議論半ばになっている。

2023 年度開催「手稲山の日記念ウォークイベント STEP1」の様子。（画像筆者提供）

2 ある場所をどう呼び合うのか、地名という創造

「手稲（テイネ）」という音の響きは、アイヌ語「テイネ・イ」に由来する。濡れているところ、湿地の意として伝わっている。このまちには、物流・酪農・鉱脈・材木・ウィンタースポーツなど、水をコントロールしながら人の活動拠点を形成してきた歴史がある。しかし、コロナ禍を経て尚更、本学に通う大学生や高校生の多くにとって、「手稲」は単に通学の経由地・目的地でしかないのではないか。現代のまちの姿からありありとは「テイネ」の歩みを感じ取ることはできない。場所には面白みがあるが、一見してわからないことは伝わりにくい。

3　時間の流れや風景の物語に加わる

標高 1,023 メートルにかけた「10 月 23 日＝手稲山の日」は手稲区によって 2014 年に制定された。ただ、残念ながら知名度はない。2024 年、学校法人北海道科学大学は手稲の地にて創立 100 周年を迎える。 そして「手稲山の日」も制定 10 周年である。ローカル記念日を創り出す。山を名付け、人と人が呼び合う。このことは、人によるクリエイティブな営みそのものではないか。ただでも流れる時間の捉え方や、何気ない風景の見え方に意識を与える。そうした人為性に敬意を表し、教職員・学生が誰に頼まれるでもなく、きっかけに利用させていただく。それが「手稲歩く観光・ 教育研修創造プロジェクト」の活動の根底である。

4　心と身体を動かす実体験の機会を創る

札幌市は人口 190 万人都市。積雪寒冷都市として世界に類を見ない。しかし、この特異な点を認識する学生は少ない。学校行事でもない限り、野外で過ごし、地域資源の価値を認識するような機会はなかなかないのである。麓の大学としては、手稲山を単に見えている山ではなく、体験を思い起こすような強い記憶のものとして仕掛けたい。「手稲」というエリア設定と「手稲山」のもつ文脈を独自に解釈し、本法人内に、2019 年度「手稲山の日記念ウォークイベント」を主に企画運営する「手稲歩く観光・教育研修創造プロジェクト」を立ち上げた。シンボリックな手稲山の存在、そして「手稲山の日」というローカル記念日を知り、地域貢献を行う学校法人として、若い学生たちと地域の多年代の皆さんが、秋の季節をともに楽しむアクティブな行事を企画・実践したいと考えた。小さな規模でも実施を継続することによって、結果として地域の自然環境やパブリック空間（歩道や都市公園等）の保全活動に関与できればと考えている。

2023 年度はイベント実施日を三段階に設定し、7 月 24 日「STEP0：準備編」、9 月 17 日「STEP1：山越え・長距離ウォーク編」、10 月 21 日「STEP2：ファンウォーク＆マルシェ編」とした。ゲストとともに正しい知識で野外活動を行うとともに、地域の文脈を楽しむ企画を学生とともに実践した。この教育・研究活動の輪が今後広がっていくことを願っている。

2023 年度開催「手稲山の日記念ウォークイベント」の企画。（画像筆者提供）

★「北日本飛行学校物語」「北海道造林合資會社物語」が紀伊國屋書店札幌本店でも販売中！

茂内義雄先生の「北日本飛行学校物語」、沖田紘昭会長の「北海道造林合資會社物語」が札幌市中央区にあります紀伊國屋書店札幌本店にて販売中です。「北日本飛行学校物語」は昭和初期の手稲にあった飛行学校の歴史について記された、当研究会会員も制作に携わった一冊です。「北海道造林合資會社物語」は明治に手稲で設立された北海道造林合資會社の歴史をまとめた一冊となっております。

次回定例会 ⇒ 発表内容「『北日本飛行学校物語』出版記念講演」茂内義雄 氏（郷土史家（元手稲郷土史研究会会長））
12 月 13 日（水）18：15～ ／ 手稲区民センター2 階 第 1・第 2 会議室　※一般の方のご参加は事前の申し込みが必要です。

手稲郷土史研究会 会報「郷土史ていね」第187号　令和５年11月８日発行　　発行責任者：沖田紘昭（手稲郷土史研究会 会長）　編集：岡和田夢子
✤〒006-0818 札幌市手稲区前田８条 11 丁目 4-5　林俊一 方　手稲郷土史研究会　✤TEL　090-3381-4994　✤FAX　011-682-9874
✤メールアドレス　teinekyoudoshi@gmail.com ＜担当 岡和田＞